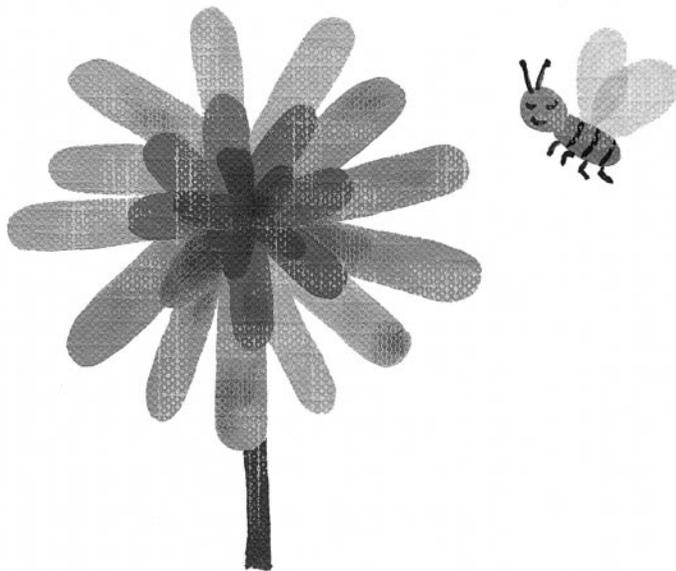


第 1 章

# 毎日の子育て生活



## 1

## 現在の子育ての気がかり

生活習慣・食生活・しつけ・勉強が  
気がかり（図1 - 1）

小3生から中3生までの子どもをもつ母親たちは、現在の子育て生活の中で、どのような「悩みや気がかり」を抱いているのであるうか。

食事・食生活、日常生活、からだと心の成長発達・性格・態度・癖、非行・問題行動、遊び・しつけ・教育、母親自身のことなど6領域52項目にわたって複数回答してもらった結果では、①「整理整頓・片づけ」47.8%、②「食の安全性」38.6%、③「生活リズム」38.5%、④「ほめ方・しかり方」35.6%の順であった。

第1位の「整理整頓・片づけ」の習慣がつかないことの悩みは幼児期から続いており、小学生になると、物は放り出したままで気にしない、学校からのお知らせや宿題のプリントまで紛失してしまう、高学年になると注意しても聞かない、母親が片づけると怒るなど、その気がかりの程度は、第2章の「親が子どもにもう少しきちんとやってほしいこと」として、「遊んだあとや部屋の片づけ」が第1位にあげられていたことにもあらわれていた。

第2位の「食の安全性」は、農薬や食品添加物、食中毒などの心配に加えて、とくに近年はダイオキシンや環境ホルモンなど、これからの子どもの将来を考える上で、安心できる食べ物が選びにくい現在の社会環境への不安であった。

夜遅くまで起きていて朝は遅れそうになる、ふだん寝不足のため休日は昼夜逆転、塾や部

活動で忙しくて睡眠不足など、全7学年で第3位の「生活リズム」は、小学生は35.1%で第6位、中学生では上昇して42.1%で第2位になっていた。

第4位の「ほめ方・しかり方」は、園児～小2生の母親を対象にした『子育て生活基本調査報告書』（ベネッセ教育研究所1998）でも、現在の気がかりの第1位にあげられており、今回も小学生では43.2%の第2位であった。

図1 - 1の折れ線グラフが全7学年の順位で、折れ線より突出している棒グラフの項目が、それぞれ小学生や中学生で目立って多い内容を示している。

自立習慣は身につかぬまま勉強や  
受験生活へ関心が移る（図1 - 2）

小3生から中3生までの7年間は、反抗期や思春期などを経過するむずかしい時期で、母親にとっても子育ての試練の時といえよう。

図1 - 2は、子育ての気がかりの学年別推移である。小3生では、①「整理整頓・片づけ」②「ほめ方・しかり方」③「食事のしつけ」など、家庭での養育関連が中心であった。

しかし、中学入学後は、生活習慣やしつけよりは、とくに学年が上がるにしたがって、高校受験を目指した勉強や今後の子どもの進路、また、受験を乗りきるための規則的な生活リズムなどに関心が移行していた。食事のぎょうぎがよくなり、片づけ能力がついてきたわけではなくて、勉強の成績や受験のほうをとりあえず優先している母親の心情が、気がかりの変化として明確にあらわれていた。

図1-1 現在の子育ての気がり

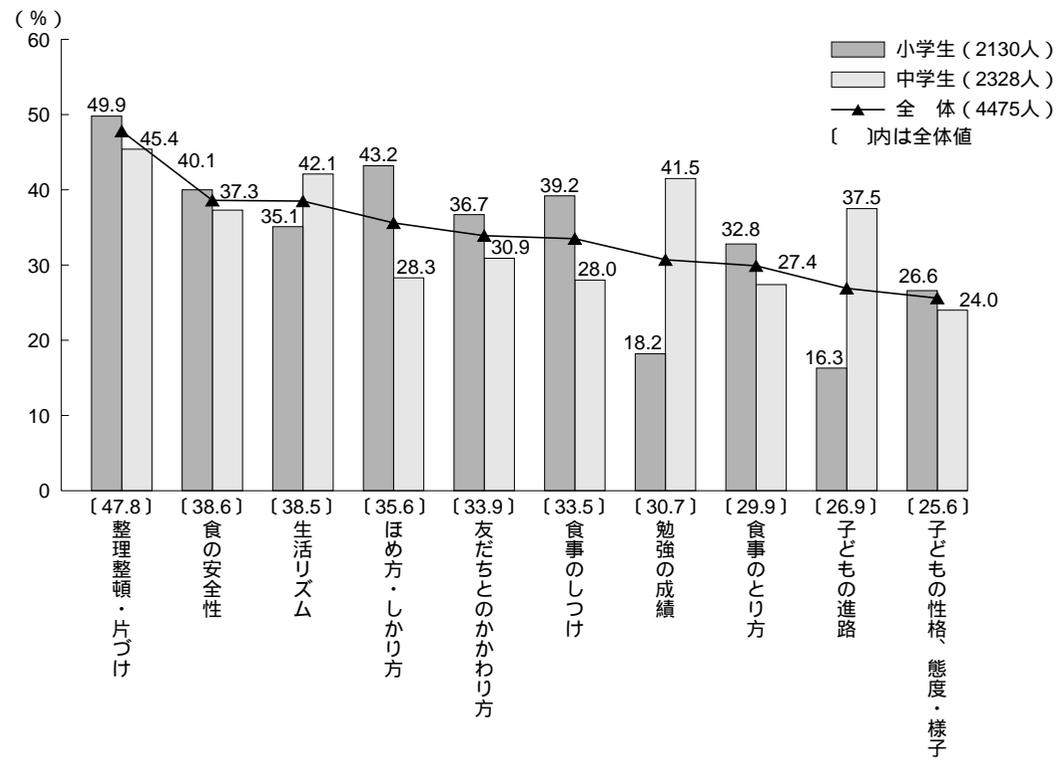
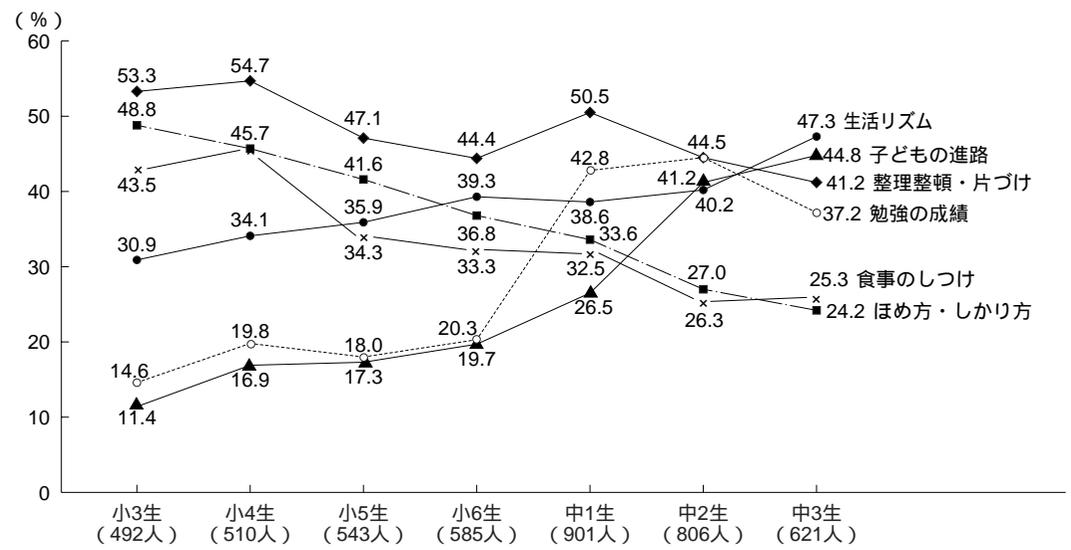


図1-2 現在の子育ての気がり×学年



生活習慣の自立がゆっくりな男子  
扱いがむずかしくなる女子（表1 - 1）  
＜小学生の場合＞

現在の子育ての気がかりな項目を性別でみると、小学生では、「歯磨き・手洗いの習慣」「食事のとり方」「家での遊び」など子ども自身の生活習慣の自立が男子に多い悩みで、女子は「ほめ方・しかり方」「子どもの性格・態度・様子」「友だちとのかかわり方」など親子関係や社会性に関連した項目が多くあげられていた。

家での遊びは、「一人でテレビゲームばかりしていて、男の子なのに外でスポーツなどからだを使って友だちと遊ぶことが少なくなった。目にも悪い」とか、「ゲームの内容が人を平気で殺し、生命を軽く考えている。マ

ングも同様である」「ソフトの値段が高いが、友だちも持っているので」などテレビゲームに費やす時間と健康への配慮、その内容と費用に関する不満が書かれていた。

テレビゲームに関しては、小学生では、ゲーム類に夢中になると外遊びをしないと、か、友だちともゲームがなければ遊べないなど、子どもの社会性を阻む存在のように位置づけられているが、中学生になると、宿題をしないでゲームをしている、当然すべき勉強を先延ばしにして、ゲームやマンガに逃げているという親の意識の変化がみられた。

一方、女子では、「何か注意をすると、すぐにムツとする。言葉づかいが悪く、反抗的な態度で扱いにくい」など、「友だちのこと、勉強のこと、きょうだいのことなどいつもイ

表1-1 現在の子育ての気がかり×小学生学年

(%)

順位	小3生 (男子243人 女子231人)	小4生 (男子242人 女子240人)	小5生 (男子240人 女子268人)	小6生 (男子284人 女子268人)
1	整理整頓・片づけ 男子 58.4 女子 49.4	整理整頓・片づけ 57.0 55.0	整理整頓・片づけ 47.9 51.1	整理整頓・片づけ 47.9 44.8
2	ほめ方・しかり方 男子 49.0 女子 51.1	食事のしつけ 51.2 44.2	ほめ方・しかり方 40.4 45.1	生活リズム 40.5 42.5
3	食事のしつけ 男子 44.9 女子 44.6	ほめ方・しかり方 42.1 51.7	食の安全性 39.2 41.0	ほめ方・しかり方 35.2 42.4
4	食の安全性 男子 42.0 女子 42.9	食の安全性 42.6 48.3	友だちとのかかわり方 31.7 41.8	食の安全性 37.3 37.7
5	友だちとのかかわり方 男子 39.9 女子 36.4	友だちとのかかわり方 33.9 42.5	生活リズム 33.8 41.8	友だちとのかかわり方 32.4 45.1
6	食事のとり方 男子 39.9 女子 35.1	生活リズム 30.2 40.0	食事のしつけ 35.0 36.9	食事のしつけ 34.9 35.1
7	生活リズム 男子 28.0 女子 35.1	食事のとり方 41.3 28.3	食事のとり方 37.5 29.1	食事のとり方 32.0 29.5
8	学校の宿題 男子 32.9 女子 27.3	学校の宿題 30.2 28.8	子どもの性格・態度・様子 23.8 32.1	家での遊び 42.3 14.9
9	歯磨き・手洗い 男子 35.4 女子 22.9	家での遊び 42.1 15.8	家での遊び 40.8 14.2	子どもの性格・態度・様子 24.6 26.9
10	子どもの性格・態度・様子 男子 30.0 女子 26.0	歯磨き・手洗い 35.5 21.7	歯磨き・手洗い 28.8 21.6	これからの生きがい 25.7 19.8

ライラしていて、怒りっぽく、今までのようなほめ方やしかり方では子どもに通用しなくなった」と母親自身が小学校高学年の女子の扱いがむずかしいことを訴えていた。

### 男子は宿題・勉強優先

#### 乱れる生活リズムも悩みの種(表1-2)

##### <中学生の場合>

図1-2でも明らかなように、中学入学を機にして「勉強の成績」「子どもの進路」が急上昇していた。今回の調査対象者の全員が子どもに高校以上の進学期待をしているために、将来の受験を意識した勉強態勢に入っていた。各学年で上位5位までの勉強関連の項目はすべて男子のほうが多く、男子への学力期待の高さが顕著であった。また、女子のほ

うが多い「生活リズム」は、小3生の気がかかりでは第7位であったが、小6生で第2位、中3生では第1位になっていた。「夜遅くまでラジオや音楽を聴いていて朝なかなか起きない。起こすのに一苦労。朝食抜きでもヘアスタイルは手を抜かない」とか、部活動や早朝練習などによる睡眠不足や不規則な生活での健康への配慮だけではなく、時間管理のできない生活全体のだらしなさを嘆く声が記述では目立った。

第2章でも、生活習慣・自立状況の満足度に「ぜんぜん満足していない」と回答した母親の気かかりの第1位は「整理整頓・片づけ」が81.3%で、第2位が「生活リズム」の70.3%であった。

表1-2 現在の子育ての気がかかり×中学生学年・全体

順位	中1生 (男子457人 女子386人)		中2生 (男子374人 女子387人)		中3生 (男子278人 女子300人)		全体 (男子2189人 女子2177人)	
		(%)		(%)		(%)		(%)
1	整理整頓・片づけ 男子 53.0 女子 50.0		勉強の成績 46.3 46.3		生活リズム 47.8 51.7		整理整頓・片づけ 49.1 46.0	
2	勉強の成績 男子 49.2 女子 38.6		整理整頓・片づけ 47.6 44.7		子どもの進路 48.9 44.7		食の安全性 38.0 39.0	
3	生活リズム 男子 35.2 女子 45.3		子どもの進路 44.9 41.1		受験準備 48.6 42.7		生活リズム 35.8 41.5	
4	食の安全性 男子 36.8 女子 41.2		生活リズム 40.1 43.4		整理整頓・片づけ 43.2 43.3		ほめ方・しかり方 33.9 37.4	
5	学校の宿題 男子 40.0 女子 31.6		食の安全性 40.1 38.0		勉強の成績 39.9 36.7		友だちとのかかわり方 31.7 35.9	
6	ほめ方・しかり方 男子 32.8 女子 37.8		学校の宿題 35.6 25.6		食の安全性 38.5 37.7		食事のしつけ 34.2 33.1	
7	食事のしつけ 男子 32.4 女子 35.2		受験準備 29.4 29.5		友だちとのかかわり方 29.9 27.0		勉強の成績 32.4 28.6	
8	友だちとのかかわり方 男子 32.4 女子 41.7		友だちとのかかわり方 30.2 30.7		これからの生きがい 28.4 31.0		食事のとり方 31.9 28.0	
9	学校生活の様子 男子 29.8 女子 30.6		これからの生きがい 27.5 30.0		食事のとり方 28.8 28.0		子どもの進路 27.7 26.4	
10	食事のとり方 男子 28.9 女子 29.3		ほめ方・しかり方 26.5 29.5		食事のしつけ 27.0 25.7		子どもの性格、態度・様子 25.6 25.8	

## 現在の一番の気がかり

### 子どもの性格や態度への対応

友だち関係も心配な小学生（図1-3）

現在抱えているさまざまな子育ての悩みや気がかりの中で、最も気にかかっていることを一つだけあげてもらい、その具体的な内容を記述してもらった。

小学生の上位3位は、①「友だちとのかかわり方」②「ほめ方・しかり方」③「子どもの性格・態度・様子」で、中学生は、①「子どもの進路」②「勉強の成績」③「受験準備」であった。

自由記述された内容をコーディングした結果と一番の気がかりの項目をかけ合わせると、「友だちとのかかわり方」で最も多かった内容は、「友人間での勢力関係で友だちとうまくやっていけない」42.6%、「友だちの好き嫌いがあり、親友ができない」22.7%、その他、「好ましくない子とのつきあい」7.0%などであった。

第2位の「ほめ方・しかり方」では、「つい、感情的になってしかってしまう」62.7%が圧倒的に多く、「きょうだい間での教育的な配慮に悩む」とか、「自分のしつけ方は間違っていたのか」など、子どもの反抗的な態度や生活習慣の自立ができていないことなども関連して、自責の念にかられている様子が述べられていた。

第3位の「子どもの性格・態度・様子」では、「反抗的で言葉づかいが悪い」22.5%、「引っ込み思案や自分勝手に友だちができない」10.0%のほか、「自分の都合で甘えたり、反発したりと態度が変わる」「親の話を聞かない」「多感な時期の子どもとのかかわり方」などがあげられていた。

### 母子で受験や勉強一色に染まる中学生

（図1-4）

一番の気がかりを学年別にみると、小6生では2.4%であった「勉強の成績」が、中1生では10.0%と急上昇している。

中学入学と同時に親の関心が勉強の成績に集中していき、中2生では、「子どもの進路」と「受験準備」が伸びて、中3生では、他の項目を引き離して上位になっていた。

中学生をもつ母親の最大関心事である子どもの進路については、「子どもに合った進路情報をもっと知りたい」19.2%、「自分で進路を見いだせるか」17.0%、「受験で合格できるか心配」14.9%のほか、「受験までを親子でどう乗りきるか、子どもの将来への不安」など、多岐にわたっていた。

第2位の「勉強の成績」は、「学習習慣や意欲がない」40.9%、「受験で合格できるか心配」19.4%、「実力がついていない」8.5%のほか、「不得意科目の心配」「塾の進度についていけない」「競争心がない、努力しない」などであきらめているなど、具体的な悩みが綴られていた。

第3位の「受験準備」は、子どもの進路や勉強の成績の内容とも類似しているが、「勉強態勢になっていない」27.1%、「受験まで親子でどう乗りきるか」17.0%、「受験勉強をいつごろから、どのように始めるか」10.5%など、子どもが自主的に取り組む受験態勢づくりよりは、母親が主導権を握り、情報収集しながら乗りきっていく実態が浮き彫りになった。

図1-3 現在の一番の気がかり

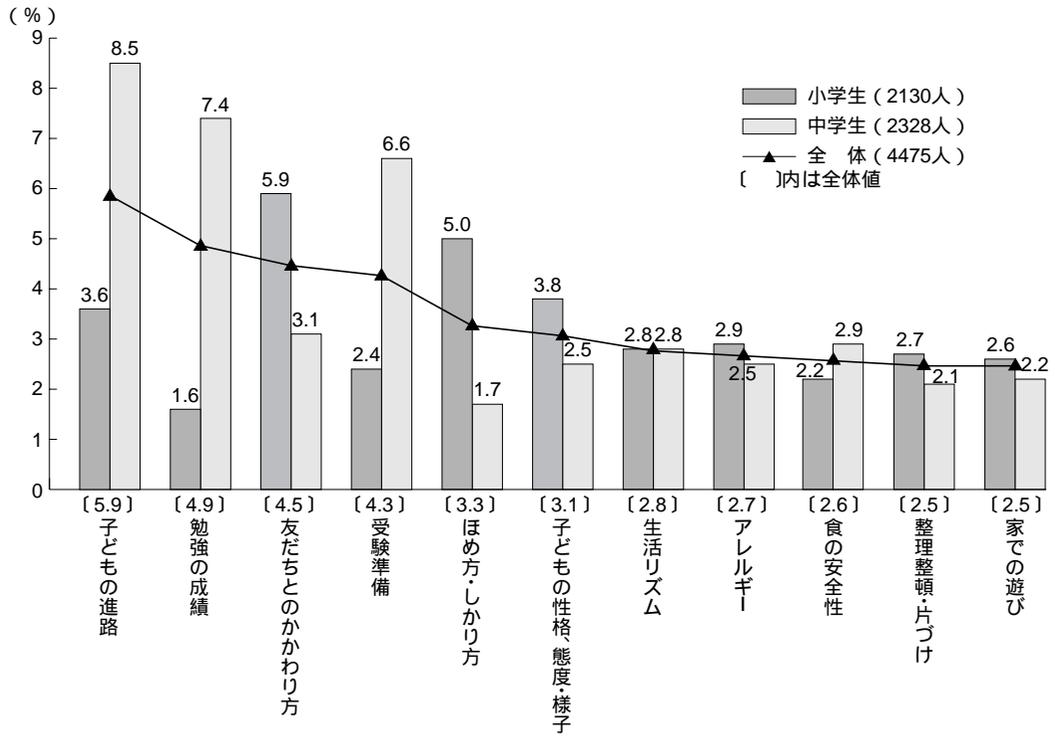
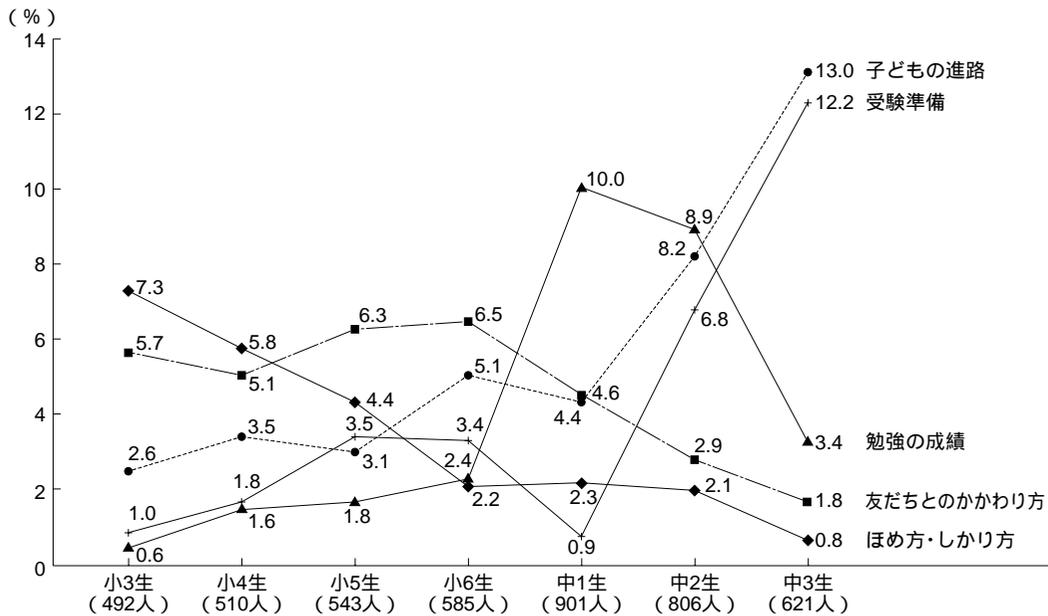


図1-4 現在の一番の気がかり×学年



## 女子の友だち関係や生活態度に

頭を悩ます母親（表1-3）

＜小学生の場合＞

小学生をもつ母親の気がかりを学年別推移でみてみると、小3生、小4生では、「ほめ方・しかり方」が第1位であるが、小6生では第10位に下降し、全学年通して上位にあるのは、「友だちとのかかわり方」であった。

「友だちとのかかわり方」は性別でみると、小・中学生を通して、女子のほうが多く、図1-4で小学校の高学年で台形状に第1位になっているのは、女子の数値が高いためである。

女の子同士のグループや仲間はずれの問題、好ましくない子とのつきあいなど、母親より友人の価値観に左右される年齢にさしかかっ

た子をもつ親の不安感があらわれていた。

男子が多い項目としては、偏食や野菜ざらいから、低身長や成長・発達の心配など、健康や栄養面での「食事のとり方」「アレルギー」、テレビゲームなど「家での遊び」、そして、「受験準備」であった。

小5生と小6生の第4位「受験準備」を最大関心事と回答した母親のそれぞれ94.7%と95.0%が中学受験をさせると回答していた。

また、小3生の第6位、小5生は第7位、小6生で第9位である母親の「人間関係」の筆頭は、「姑との問題」38.8%、「子どもの友だちの親とのトラブル」37.8%などであるが、具体的な内容としては、教育方針が違う、生活感覚が合わないなど、親子でつきあう上でのトラブルへと発展していた。

表1-3 現在の一歩の気がかり×小学生学年

(%)

順位	小3生 (男子246人 女子237人)		小4生 (男子249人 女子250人)		小5生 (男子248人 女子283人)		小6生 (男子296人 女子279人)		
	1	ほめ方・しかり方 男子 6.1 女子 8.9	ほめ方・しかり方 4.0 8.0	友だちとのかかわり方 3.6 8.8	友だちとのかかわり方 4.4 9.0	2	友だちとのかかわり方 男子 5.7 女子 5.9	友だちとのかかわり方 2.0 8.4	ほめ方・しかり方 3.6 4.9
3	食事のとり方 男子 4.1 女子 3.0	子どもの性格、態度・様子 4.8 3.6	子どもの性格、態度・様子 4.8 3.2	子どもの性格、態度・様子 3.0 3.9	4	子どもの性格、態度・様子 男子 2.4 女子 4.2	子どもの進路 2.0 4.8	受験準備 4.0 3.2	受験準備 4.4 2.5
5	アレルギー 男子 3.3 女子 3.4	食事のとり方 4.8 1.6	整理整頓・片づけ 1.2 4.6	家での遊び 5.4 0.0	6	人間関係 男子 2.8 女子 3.0	家での遊び 6.0 0.4	子どもの進路 2.8 3.5	アレルギー 3.4 2.2
7	整理整頓・片づけ 男子 3.3 女子 2.5	整理整頓・片づけ 1.6 4.4	人間関係 3.2 2.8	食事のとり方 2.7 2.2	8	食の安全性 男子 2.4 女子 3.0	アレルギー 3.2 2.4	アレルギー 4.0 1.8	勉強の成績 2.0 2.5
9	子どもの進路 男子 3.7 女子 1.7	仕事と家庭の両立 2.8 2.8	食事のとり方 2.8 2.1	人間関係 2.0 2.9	10	家での遊び 男子 4.1 女子 0.8	食の安全性 2.4 2.4	食の安全性 1.2 2.8	ほめ方・しかり方 2.0 2.5

思春期にさしかかり子どもの心が

見えなくなる(表1-4)

<中学生の場合>

「友だちとのかかわり方」や「子どもの性格、態度・様子」は女子に多い悩みで、「子どもが何を考えているのかわからない」「自分の今までの子育ては失敗だったのだろうか」と不安がつり、また、男子は「学校のことを話してくれない」「タバコや飲酒など友だちからの悪影響が心配」など、子どもが親離れしていくことにとまどう様子が記述内容から感じられた。それらの子育てで不安ともあいまって、更年期に向かって母親自身の体調がすぐれないとか、これからの生きがいを探したいなど、中学生では、母親自身が“子育て後の何か”を真剣に求め始めていた。

中3生で第4位の「アレルギー」は、今回の調査時期の12月が乾燥した季節であったことも関連して、「親としては、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎や喘息による諸症状をどのように緩和させることができるか」「症状の悪化に伴う学校生活でのトラブルや、受験勉強によるストレスも悪化の引き金の一つになっている」など深刻な実情が記述されていた。

ところで、子育て生活の満足度が高く、子育てがとても楽しいと自己評価する母親の一番の気がかりは、①「食の安全性」②「アレルギー」であり、勉強よりも何よりも、まず健康な食生活づくりが、子育てのすべての基本になるという生活意識が感じとられた。

表1-4 現在の一番の気がかり×中学生学年・全体

(%)

順位	中1生 (男子469人 女子399人)	中2生 (男子387人 女子407人)	中3生 (男子289人 女子315人)	全体 (男子2189人 女子2177人)
1	勉強の成績 男子 11.3 女子 8.5	勉強の成績 8.5 9.3	子どもの進路 14.2 12.7	子どもの進路 6.4 5.6
2	友だちとのかかわり方 男子 3.2 女子 6.3	子どもの進路 9.3 7.4	受験準備 14.5 10.5	勉強の成績 5.1 4.6
3	子どもの進路 男子 4.7 女子 4.5	受験準備 5.4 7.6	勉強の成績 3.5 3.2	友だちとのかかわり方 3.2 6.0
4	子どもの性格、態度・様子 男子 1.5 女子 5.0	食の安全性 2.6 4.2	アレルギー 2.4 3.5	受験準備 4.4 4.2
5	整理整頓・片づけ 男子 0.8 女子 2.5	友だちとのかかわり方 2.6 3.2	食の安全性 2.8 2.2	ほめ方・しかり方 2.4 4.2
6	家での遊び 男子 5.3 女子 0.3	子どもの接し方 3.1 2.5	これからの生きがい 0.3 3.8	子どもの性格、態度・様子 2.7 3.4
7	食の安全性 男子 2.1 女子 3.5	アレルギー 3.4 1.7	人間関係 2.1 2.2	生活リズム 2.4 3.3
8	ほめ方・しかり方 男子 1.5 女子 3.0	子どもの性格、態度・様子 2.6 2.0	仕事と家庭の両立 1.7 2.2	アレルギー 3.1 2.3
9	これからの生きがい 男子 2.8 女子 2.0	ほめ方・しかり方 1.0 3.2	子どもの性格、態度・様子 1.0 2.5	食の安全性 2.2 2.8
10	アレルギー 男子 2.6 女子 2.0	家での遊び 3.1 0.7	友だちとのかかわり方 1.0 2.2	家での遊び 4.4 0.4



## うまくやっているか心配

### 友だちづきあい・学校生活

「親が気にしすぎかもしれないが、性格的にあきっぱく親友ができない。次々友だちが変わり自分より強い子とは遊ばず、もう少し協調性がほしい」(小5男子/第1子/33歳)

「ゲームなど買ってやりたくなくても、ゲームがないと友だちと遊べない。もっと健康的な遊びをしてほしい」(小5男子/第1子/31歳)

「仲のよい友だちの中に、喫煙やバイクの二人乗りなど学校のブラックリストに載っている子がいます。うちの子はその友だちをいい奴だと言いますが心配」(中3男子/第1子/41歳)

「受験勉強で夜遅くまで起きている間に、異性からの長電話が毎日平均1～2時間あること」(中3男子/第2子/43歳)

「現在、不登校です。カウンセリングにも通ったり、担任とも連絡をとっています。今後の進学を考えて、学校へ行かなくてはと頭の中では考えているようですが...」(中学女子)

「最初は暴力によるいじめだったが、証拠が残るので、最近は言葉によるいじめに変わった。中学受験の塾通いのストレスをうちの子に向けているその子は、自分の家ではよい子を演じていて親は何も気づかない」(小学男子)

## 勉強への意欲がない

### 親が心配な子どもの進路

「中学受験を控えて、本当はもっとたくさん毎日でも遊ばせてあげたい。自然の中や友だち、スポーツの中にこそ子どもの成長があると思うが、現実...」(小5男子/第2子/42歳)

「ともかくやる気がない。授業についていけないのではと、問いかけると面倒くさいら

しく、返事がこない。だから、つい感情的になってしまう。正直、何を考えているのかわからないことが多い」(中1女子/第1子/43歳)

「机に向かって勉強をする習慣がなかなかできず、テスト前も2～3日だけなので点数がよくない。自分からはやる気がないので高校受験がとても不安」(中2男子/第1子/41歳)

「学歴ばかりが人生ではないけれど、日本の学歴社会は変わりそうにない。少しでもネームバリューがあるところがいいのか、本人に合う学校が一番か進路選択は親にも子どもにもむずかしい」(中3女子/第2子/46歳)

「中学入学後、勉強をまったくしなくなり成績が下がる一方。小4のときから塾づけの生活をしてきた反動なのか、勉強がもう嫌いになったのか思い悩む」(中3男子/第1子/41歳)

「不況で年収が極端に減少し、子どもが希望する学校の受験ができない」(中3男子)

## 子どもの現在と将来の健康

「家庭での食事は妊娠以前から安全に注意を払ってきたが、子どもが大きくなり、学校給食や外食も増えて、将来のからだへの影響や妊娠出産を考えると、取り巻く環境汚染も含めて非常に不安です」(小5女子/第1子/42歳)

「アレルギー性鼻炎がひどくて困っている。いつも鼻水が出て、かゆいので鼻に手がいくし、本人も周りも気になる。一生、鼻炎なのかと思うと不安」(小4女子/第3子/35歳)

「偏食がある。好きな物だけを選んで食べる。生活の中にも興味のあるものだけ受け入れて、嫌いなことや物を排除する傾向があり、将来の生活に影響がありそうで心配」(中3男子/第1子/42歳)

## しつけ・教育の情報源

近所の友人・配偶者・学校の先生が  
情報源の上位3位（図1-5、6）

母親たちは子育ての気がかりとして、毎日のしつけや教育に関することを上位にあげていた。それらのしつけや教育に関する情報をどのような人やどこから入手しているのかをたずねた結果が図1-5である。

全7学年通しての順位は、①「近所の友人・知人」61.1%、②「配偶者」48.3%、③「学校の先生」44.6%、④「新聞」43.6%、⑤「実家の母」33.6%であった。

第6位にあげられている「近所ではない友人・知人」と知り合った場所としては、①「学生時代」30.1%、②「職場」26.5%、③「子どもの同級生の親」20.8%などのほか、以前住んでいた所、社宅、地域活動、趣味やカルチャーセンター、生協や信仰仲間など多様で、母親たちの行動範囲の広さの一端がうかがわれた。

学年が上がると実家の母は下降し、  
配偶者の出番（図1-6）

園児と小1生～小2生を対象にした前回調査から12学年を通して比較すると、第1位は「近所の友人・知人」で変わらないものの、年少児では71.9%であったのが、小1生を除いて、学年が上昇するにつれて下降し、中3生では57.0%になっていた。幼児を育てているときには何かと頼りにした「実家の母」は、年少児では53.0%で第3位であったのが、小学校入学時から下降をたどり、小4生のむずかしい時期には一度上昇するが、中3生では

27.4%の第5位になっており、同様に小2生までは第2位であった「園や学校の先生」もしだいに下降して、中学では第4位であった。

一方で、学年とともに上昇しているのは、年少児では39.0%の第4位であった「配偶者」が中1生で52.2%の第2位になっており、中学では父親の出番となっていた。また、「自分の子ども」から情報を得ようとする母親は、年少児では13.1%であったが、中1生は28.1%と上昇していた。その他では、「新聞」が年少児31.2%の第5位から中3生47.5%の第2位へ上がっていた。さらに、「園や学校の先生」は、子どもの節目になるような学年で上昇し、翌年は下降する山型をくり返している。

地域密着の情報収集型から  
個人ネットワーク型へと移行

子どもが幼児や小学校低学年のときには、しつけや教育情報を同じ年頃の子どもがいる子育て仲間の近所の友人や子育て経験者でもある実家の母、また、子どものことをよく知っている園や学校の先生などに求めている母親が多かった。しかし、小学校の高学年以降は、関心事がしつけよりは教育に移行していくこととも関連して、情報源は父親を中心として、個別の専門情報を得るための特定の友人や学校や塾関係、新聞、自分の子ども自身などに求めるように変化してくる。

家庭から一歩出て探す外向きで地域に密着した情報収集型から、家庭内で決めてから行動する個対応情報収集型へと移行していく。

図1-5 しつけ・教育情報源

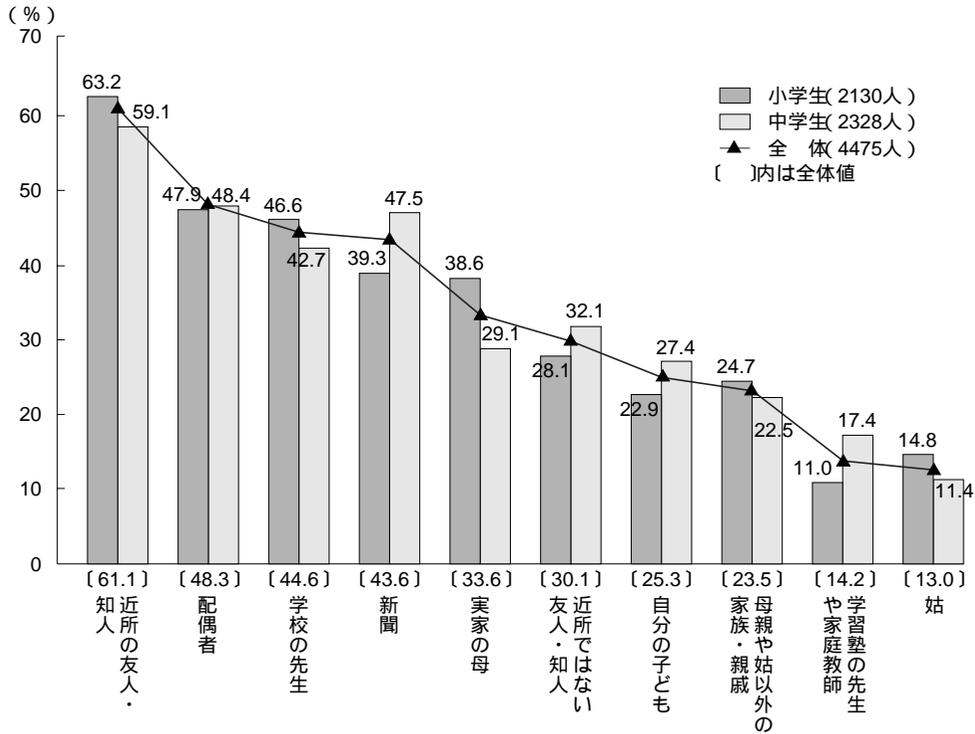
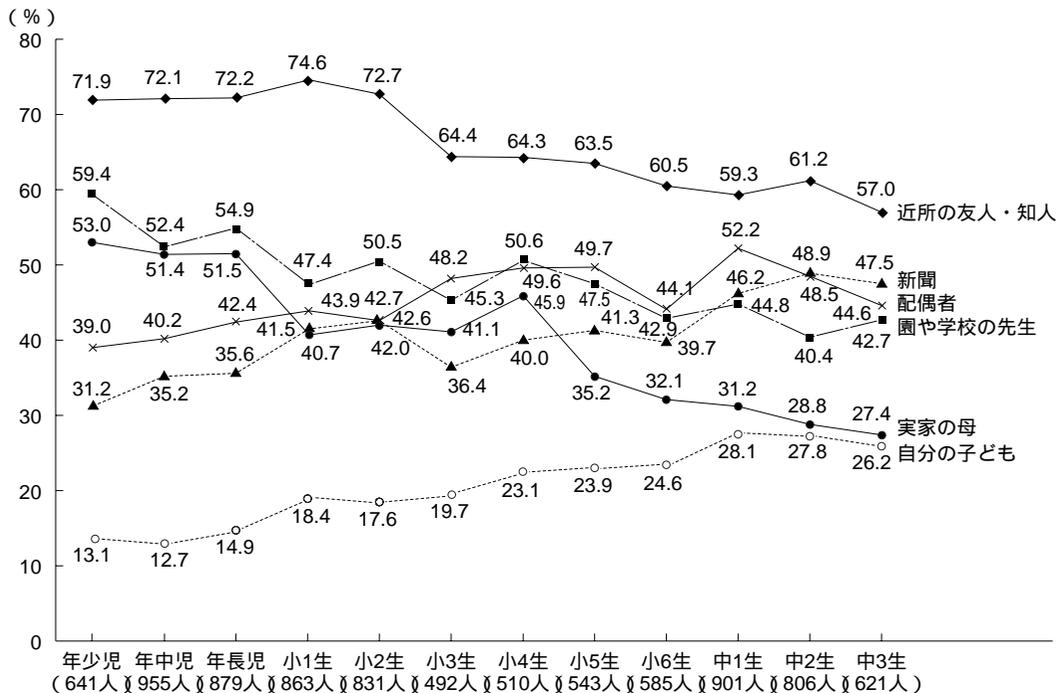


図1-6 しつけ・教育情報源×学年



## 信頼するしつけ・教育情報源

信頼する情報源の第1位は配偶者・友人・実家の母(図1-7、8、9)さまざなしつけ・教育情報源の中で、とくに信頼している情報の入手先を上位三つあげてもらい、その第1位から第3位までを合わせた結果が図1-7である。

図1-9では、「近所の友人・知人」や「実家の母」「園や学校の先生」が学年上昇とともに軒並み下降するのに比べて、「配偶者」だけが急上昇しており、それまでは多様化されていた信頼する情報源が、小3生からは急速に配偶者への期待が高まり、子どもが勉強や心身の発達でもむずかしい時期になる中学では、母親が父親の子育て参加を必要としていることがあらわれていた。

親になっても困ったときは  
“実家の母”が頼みの綱

母親の就業状況別で最も信頼する情報源に変化があるかをみると、専業主婦では、小3生から中3生まで合わせて「配偶者」が25.7%の第1位で、第2位は小4生が「実家の母親」であるのを除き、その他はすべて「近所の友人・知人」13.4%であった。パートタイマーも同様に第1位は「配偶者」21.8%、第2位は「近所の友人・知人」で14.9%、小4生だけ第1位と第2位が逆転していた。

一方、常勤者の第1位も、「配偶者」で専業主婦やパートタイマーと変わらないが、19.4%と信頼度の割合が下がり、第2位は「学校の先生」10.6%と異なり、小3生と小5生では、「実家の母」が第1位になっていた。

そこで、常勤者の実家の母との同居率をみ

ると14.2%で、専業主婦の7.2%やパートタイマーの7.5%と比べて高く、さらに、配偶者との同居率は78.6%で、専業主婦94.1%やパートタイマー91.6%よりかなり低いことがわかる。妻が常勤のため、夫の単身赴任率が高い可能性もあろう。また、死別や離婚などの諸事情で、常勤者は実家の母を夫に代わる情報源として信頼している一端がうかがえた。

また、同居していなくても、核家族で子育てが「あまり+ぜんぜん楽しくない」と感じている人は、よき相談相手となってくれる「実家の母」が41.1%で、最も多く頼りにしていた。

生活感覚や教育観が合う  
情報源を選び分ける母親たち

子育て生活全般の満足度をみると、「とても満足している」人は、最も信頼する情報源として、①「配偶者」28.0%、②「近所の友人・知人」11.2%、③「実家の母」8.4%の順で選び、「ぜんぜん満足していない」人は、①「配偶者」15.0%、②「学校の先生」12.1%、③「近所ではない友人・知人」11.2%など、個人情報を守れる人たちを選んでいった。さらに、「子育ての一番の気がかり」の内容別にどの人が最も信頼する情報源かを比べると、最大の関心事が「勉強の成績」と「仕事と家庭の両立」の人は、教育観や生活感覚が合う「近所ではない友人・知人」を一番多く選んでいた。また、「夫とのコミュニケーション」や「これからの生きがいや始めたいこと」などの悩みがある人は、最も信頼する情報源として「実家の母」を第1位にあげていた。

図1-7 信頼するしつけ・教育情報源×順位

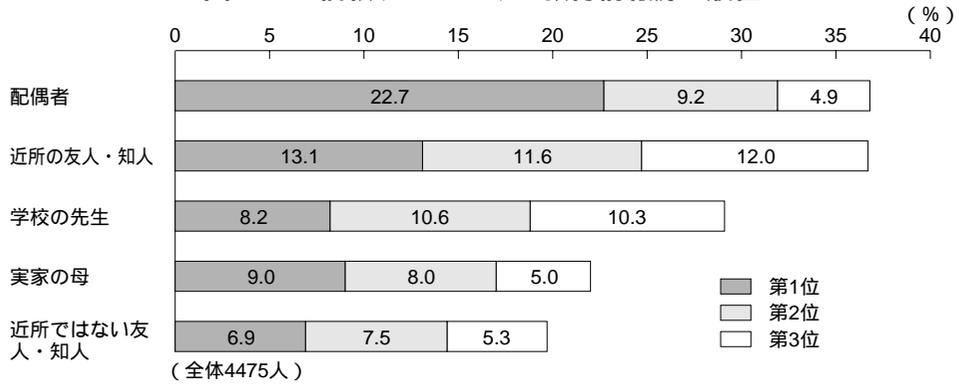


図1-8 最も信頼するしつけ・教育情報源

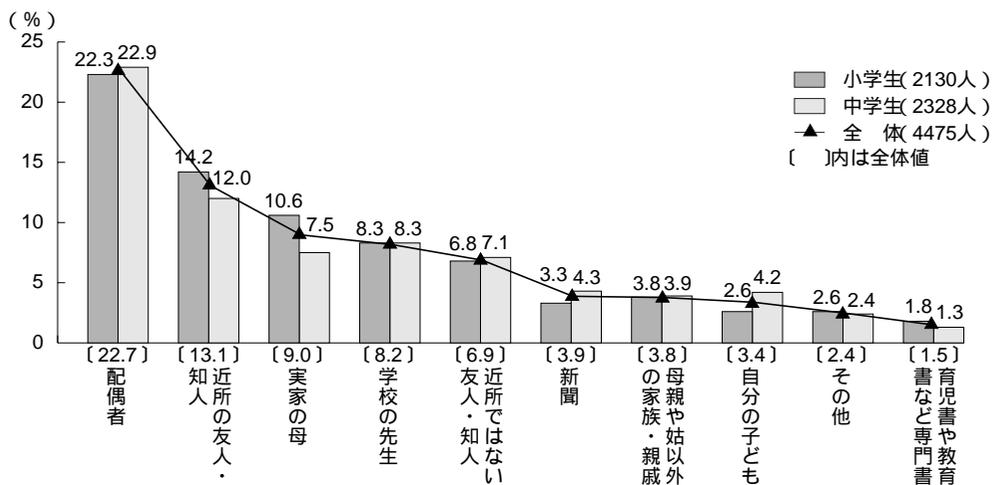
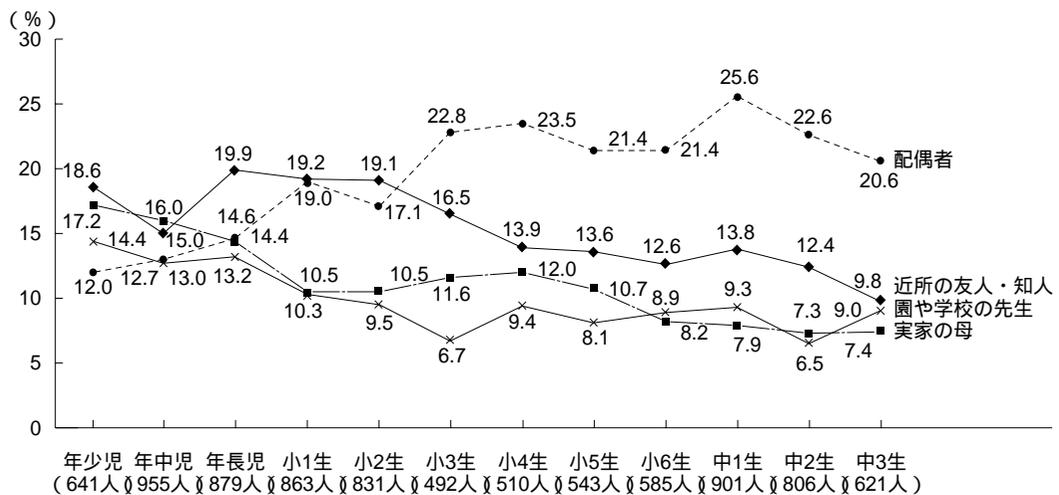


図1-9 最も信頼するしつけ・教育情報源×学年



## 情報源を信頼する判断理由

個別に対応できる情報が重要視され  
選ばれている（図1-10）

しつけ・教育の情報源を信頼できると判断するとき、14項目の内容をどのくらい重要と考えるかの程度を4段階でたずねた。

判断理由の重要度は、子どもの性別ではほとんど差がみられなかったが、学年間では、低学年ほど、どの項目でも重要度が高く、子育て情報に対する期待の高さを物語っていた。

さらに、信頼する情報源の第1位の人たちと、判断理由で「とても重要である」とされた内容との関連性をみたのが表1-5である。

ファミリー意識、専門性、親近感

の三つのグループに（図1-11、表1-5）

14項目を項目間で関連の強いⅠからⅢまでの三つのグループに分類したのが図1-11で

ある。表1-5でも明らかなように、グループⅠは「配偶者」や「実家の母」などを中心としたファミリー意識の強い情報源で、身内の安心感や信頼度に関する内容が重要視されている。

グループⅡは、親近感や安心感がある友だちネットワークである。それぞれの順位内容をみると、「近所の友人・知人」からはより身近で役立つ情報を、「近所ではない友人・知人」には、プライバシーを守る親密感や目指す教育観などを理解し合いながらの情報提供を望んでいる。また、グループⅢは「学校の先生」や「新聞」など専門性や現場の最前線であることがその特徴であり、情報の質の点で、家族や友人とは異なったことを要求していることがわかる。

図1-10 情報源を信頼する判断理由

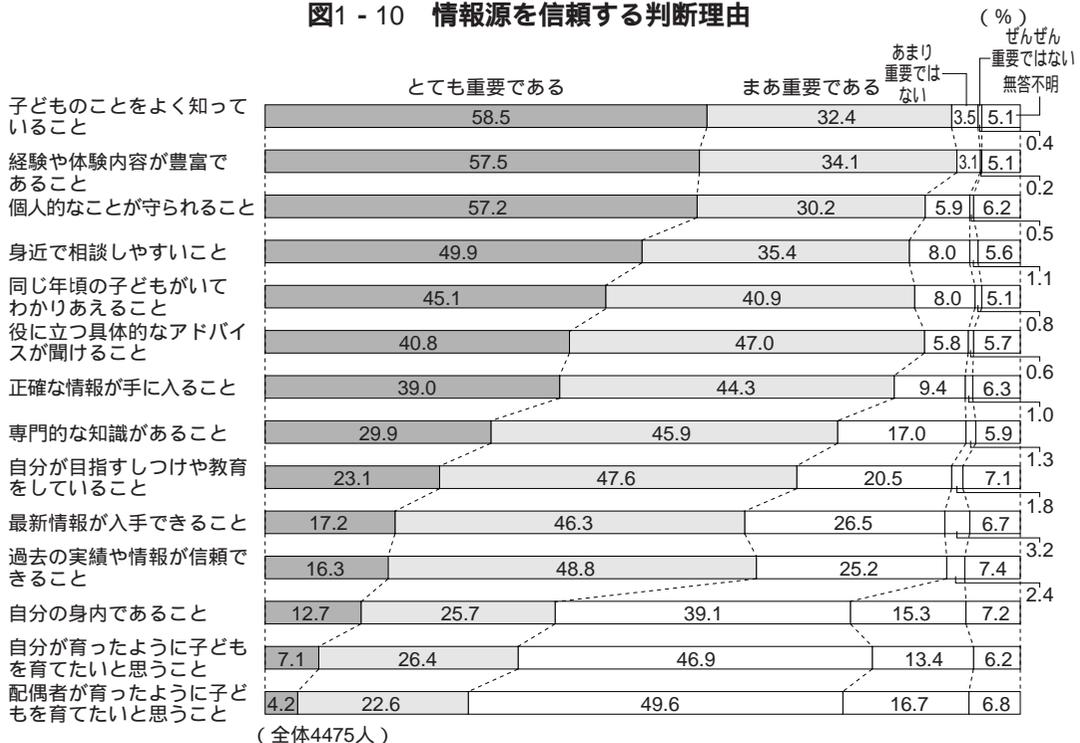


図1 - 11 しつけ・教育情報源の信頼理由三つのグループ

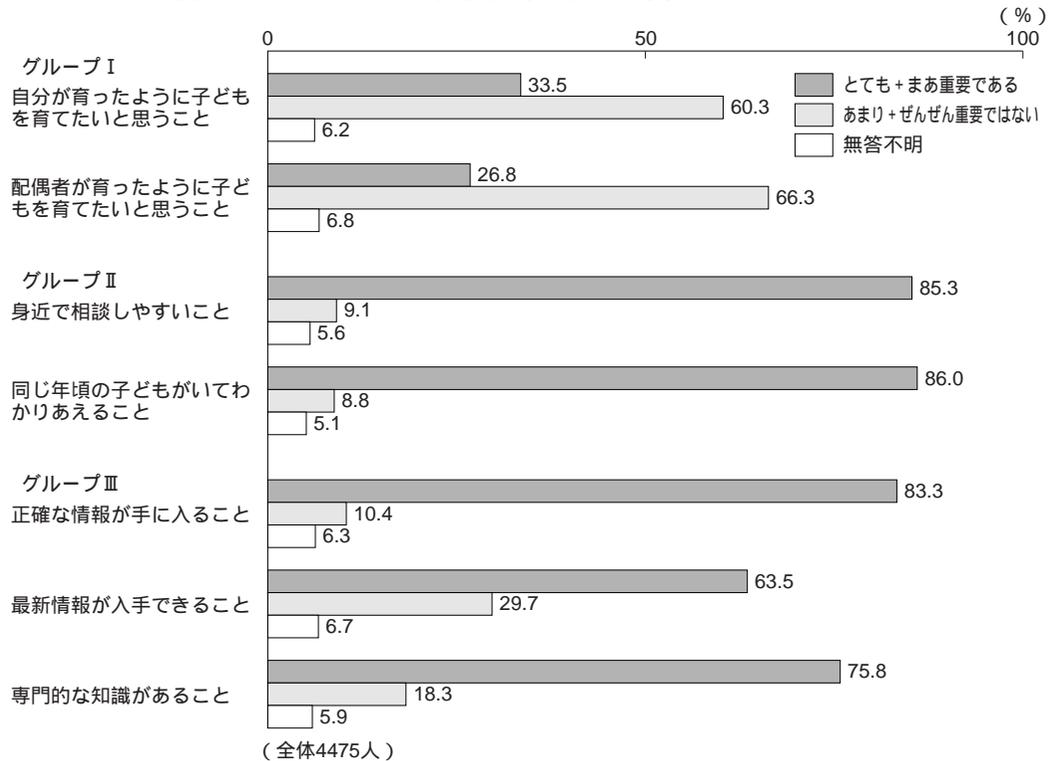


表1 - 5 最も信頼する情報源×判断理由(とても重要である)

				(%)	
順位	配偶者	順位	実家の母		
1	自分の身内であること 34.2	1	自分が育ったように育てたいと思うこと 19.8		
2	配偶者が育ったように育てたいと思うこと 31.7	2	自分の身内であること 17.7		
3	身近で相談しやすいこと 27.7	3	配偶者が育ったように育てたいと思うこと 12.2		
4	子どものことをよく知っていること 24.2	4	過去の実績や情報が信頼できること 11.0		
5	個人的なことが守られること 24.0	5	身近で相談しやすいこと 10.6		
近所の友人・知人		近所ではない友人・知人			
1	同じ年頃の子どもがいてわかりあえること 18.9	1	同じ年頃の子どもがいてわかりあえること 8.8		
2	身近で相談しやすいこと 16.2	2	経験や体験内容が豊富であること 7.7		
3	役立つ具体的なアドバイスが聞けること 14.7	3	自分が目指すしつけや教育をしていること 7.5		
4	経験や体験内容が豊富であること 14.1	4	個人的なことが守られること 7.4		
5	過去の実績や情報が信頼できること 13.5	5	身近で相談しやすいこと 7.3		
学校の先生		新聞			
1	専門的な知識があること 12.6	1	最新情報が入手できること 8.8		
2	最新情報が入手できること 11.4	2	専門的な知識があること 6.1		
3	正確な情報が手に入ること 10.1	3	過去の実績や情報が信頼できること 5.4		
4	子どものことをよく知っていること 9.5	4	正確な情報が手に入ること 5.2		
5	自分が目指すしつけや教育をしていること 9.3	5	個人的なことが守られること 4.1		

(全体4475人)

## 子育ての楽しさ

小3生から中3生をもつ母親は、子育ての楽しさをどの程度感じているのか。子育ての毎日の楽しさについて「とても楽しい」「まあ楽しい」「あまり楽しくない」「ぜんぜん楽しくない」の4段階でたずねた。

9割近くの母親が、子どもの学年にかかわらず、子育てが楽しいと感じている（図1-12）

毎日の子育てを「とても楽しい」と感じている人は19.8%、「まあ楽しい」が69.3%、「あまり楽しくない」が8.4%、「ぜんぜん楽しくない」が0.6%だった。「とても+まあ楽しい」は、9割近くに達している。子どもの学年別に楽しさを比べると、ほとんど差はない。園児～小2生の母親を対象にした前回調査と比べても、ほとんど差はなかった。園児から中3生の多くの母親は、子どもの学年にかかわらず、子育てを楽しんでいることがわかった。

一方、子育てを「あまり+ぜんぜん楽しくない」と感じている人に注目して、子育てを中心にした悩みや気がかりをみてみた。学年別にみると、子育てを楽しめないと感じる母親は、学年全体にわたって、「子どもの性格、態度・様子」をあげている。また小3生から中1生では「ほめ方・しかり方」、中1生と中2生では「勉強の成績」、中1生と中3生では「生活リズム」をあげている。子育てを楽しめないと感じている人は、「子ども自身に対する悩みや気がかり」「小学生では家庭での教育、中学生では子どもを取り巻く社会環境という、年齢に応じて変化する悩みや気がかり」をもっていることがわかった。

第1子の母親は、子育ての緊張が和らいでいる

第1子の母親と第2子以降の母親で楽しさを比べた。「とても+まあ楽しい」の割合は、第2子以降89.6% > 第1子88.6%（1.0ポイント差）だった。わずかだが、第1子の母親より第2子以降の母親のほうが子育てを楽しんでいると感じている。前回調査では、第2子以降91.4% > 第1子87.6%（3.8ポイント差）だった。この2回の調査を比べると、出生順位間の差は少なくなり、第1子の母親が楽しさを感じている割合は増えている。子どもが成長するにつれて、一人目の子どもを育てる緊張が和らぎ、楽しんでいる母親の様子がうかがえる。

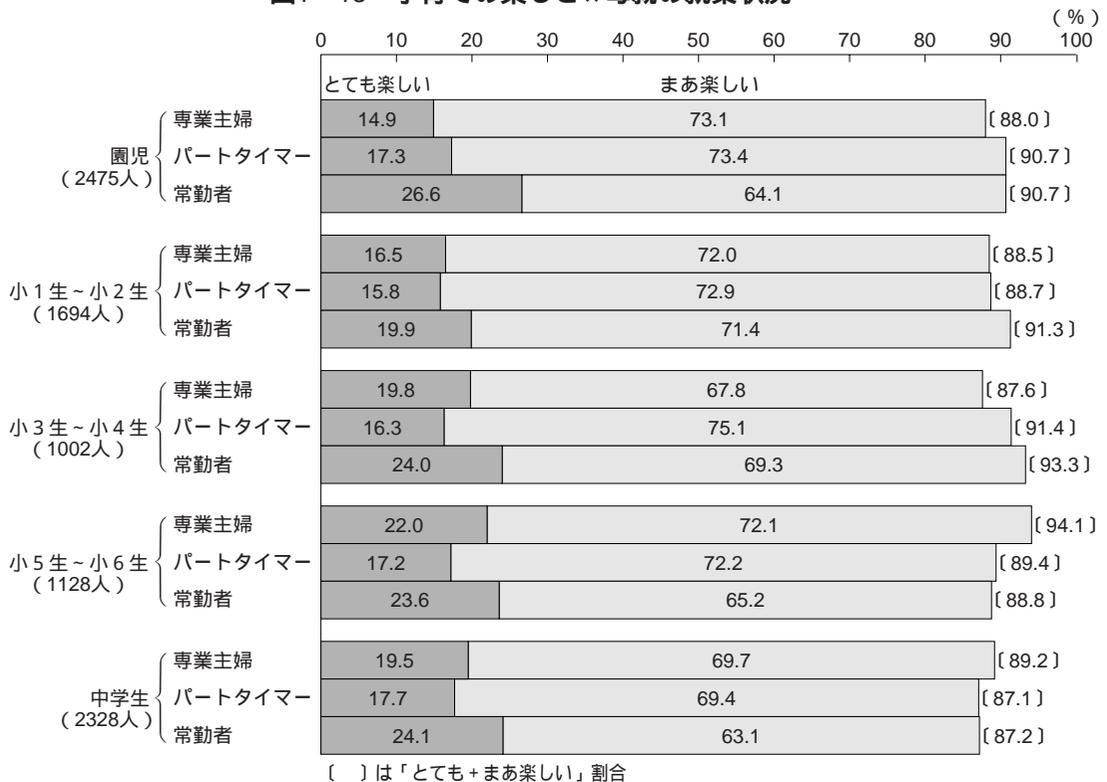
常勤者の母親は子育てにより多く楽しさを感じている（図1-13）

母親の就業状況別との関連をみてみよう。専業主婦、パートタイマー、常勤者で「とても+まあ楽しい」割合を比べると、専業主婦90.0% > 常勤者89.0% > パートタイマー88.5%（園児から小2生では、常勤者91.1% > パートタイマー90.0% > 専業主婦88.6%）となった。また「とても楽しい」割合を比べると、常勤者23.8% > 専業主婦20.2% > パートタイマー17.3%（園児から小2生では、常勤者24.4% > パートタイマー16.8% > 専業主婦16.2%）だった。常勤者の母親は子どもと過ごす時間が少ないが、その中で子育ての楽しさを多く感じとっている。また、前回と今回の調査を比べると、常勤者とパートタイマーの母親に変化はあまりないが、専業主婦の母親は子育てに楽しさを感じる割合が増していることがわかった。

図1-12 子育ての楽しさ×学年



図1-13 子育ての楽しさ×母親の就業状況



## 子育ての場面

母親は子どもとどれくらい共有する場面を持ち、またどのような気持ちを抱くのだろうか。ここでは12場面をとりあげ、「よくある」「ときどきある」「あまりない」「ぜんぜんない」の4段階でたずねた。なお、場面を4グループに分け、基本コミュニケーション（以下、遊ぶ・話す）、会話によるコミュニケーション（会話）、行動によるコミュニケーション（行動）、母親の意識（意識）としている。

「よくある」のは学校行事と子どもの成長を感じる場面（図1-14）

「よくある」の割合の高い順位にみると、第1位「学校の参観日や運動会など行事に参加する」81.3%、第2位「子どもが成長したと感じる」74.5%、第3位「家族みんなで食事をする」66.5%、第4位「子どもと一緒に遊ぶ・話をする」62.6%、第5位「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」54.0%となっている。このことから、母親は学校でのイベントや、家庭での食事、ちょっとした遊びや会話を通して、子どもと共有する場面を多くもち、子どもの成長とともに自分自身の成長も感じとっていることがわかった。

子どもが成長するにつれて、会話の内容が変わり、一緒に何かすることが少なくなる。しかし、意識は変わらない（図1-15）

子育ての場面を子どもの性別にみると、男女にあまり差はないが、女子のほうが男子より母親と接する機会をやや多くもっていた。

次に、学年が上がるにつれて「よくある」と答える割合にどのような変化があるのか、場面のグループ別にみてもみた。

遊ぶ・話す「子どもと一緒に遊ぶ・話をする」に変化はみられないが、「家族みんなで遊ぶ・話をする」では、学年が上がるにつれて割合が減っている。

会話「子どもと『成績や勉強について』話をする」「子どもと『将来や進路について』話をする」は割合が増えている。逆に割合が減るのは、「子どもと『友だちや先生について』話をする」だった。

行動「家族みんなで食事をする」に変化はみられないが、「子どもと一緒に出かける」「学校の参観日や運動会など行事に参加する」は割合が減っている。

意識「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」は減っているが、「子どもが成長したと感じる」「子どもをもつことで自分自身が成長したと感じる」「子どもの様子を見てみると、つい不安になる」にあまり変化はなかった。

子どもの学年にかかわらず、母親が子どもの成長や自分の成長を感じたり、子どもの様子に不安を感じる割合は変わらないことがわかった。一方、子どもが成長するにつれて、母親と子どもとの会話は「友だちや先生」といった子どもを取り巻く人々に関する話題から、「成績や勉強」「将来や進路」といった子ども自身に関する話題に移っていく。また、母親が「一緒に出かける」「学校行事に参加する」といった場所の移動を伴う行動が少なくなっていく状況が浮かび上がった。

図1 - 14 子育ての場面

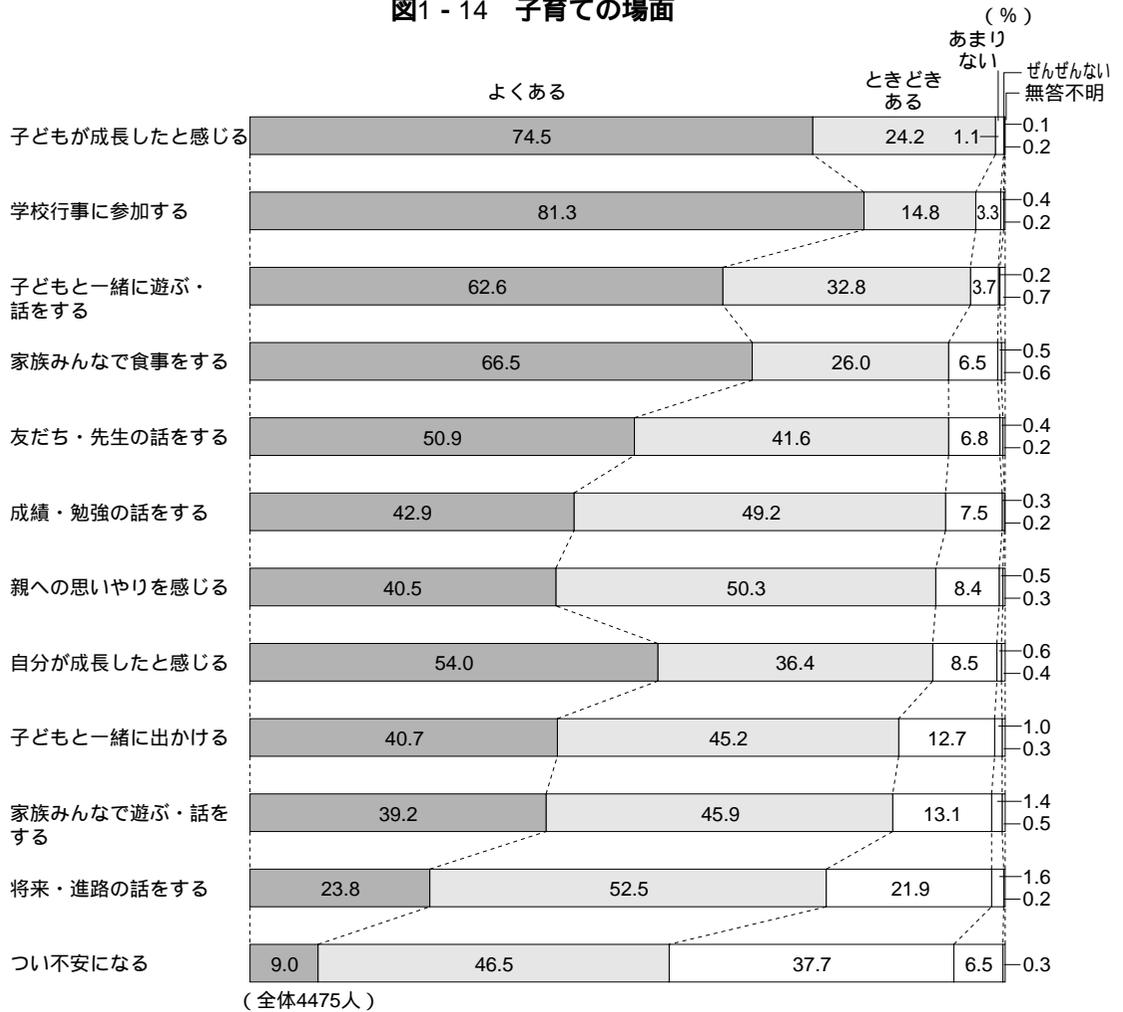


図1 - 15 子育ての場面(1) 遊ぶ・話す×学年

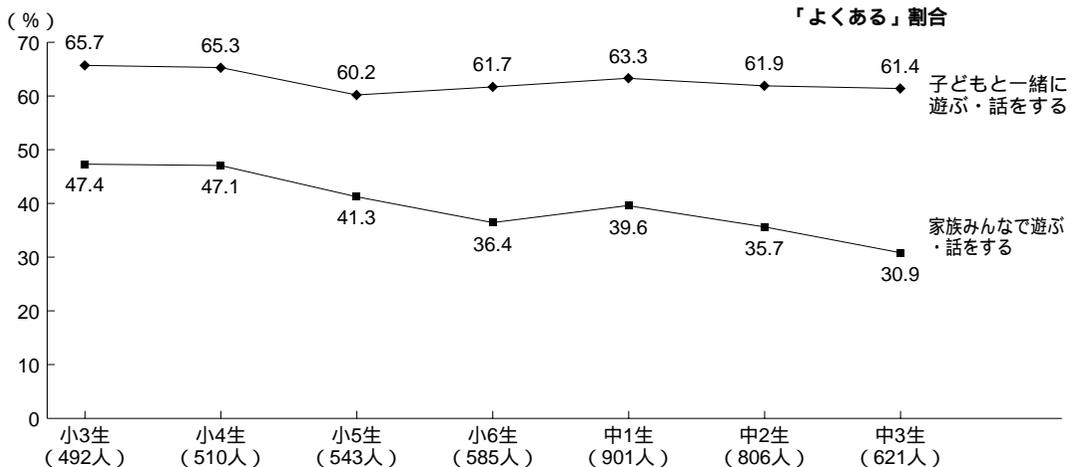


図1 - 15 子育ての場面(2) 会話によるコミュニケーション×学年

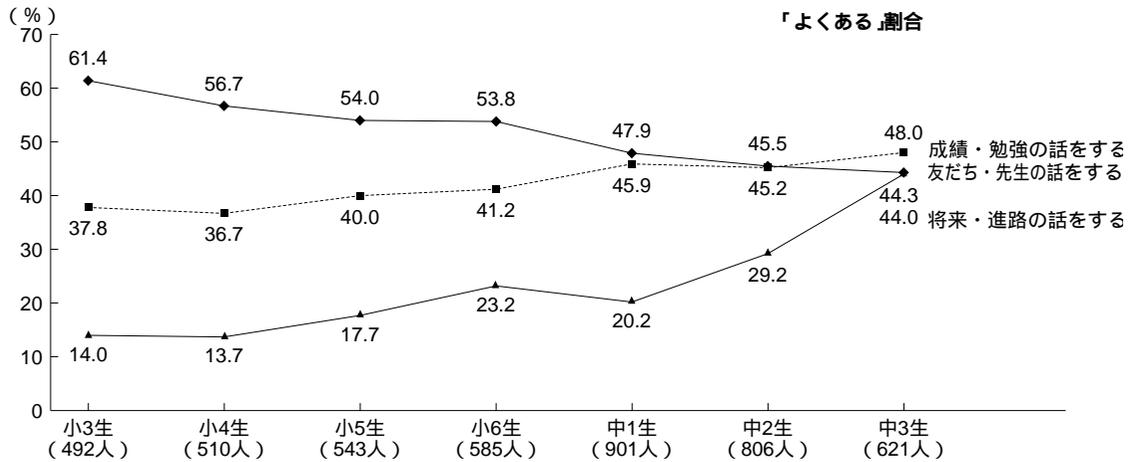


図1 - 15 子育ての場面(3) 行動によるコミュニケーション×学年

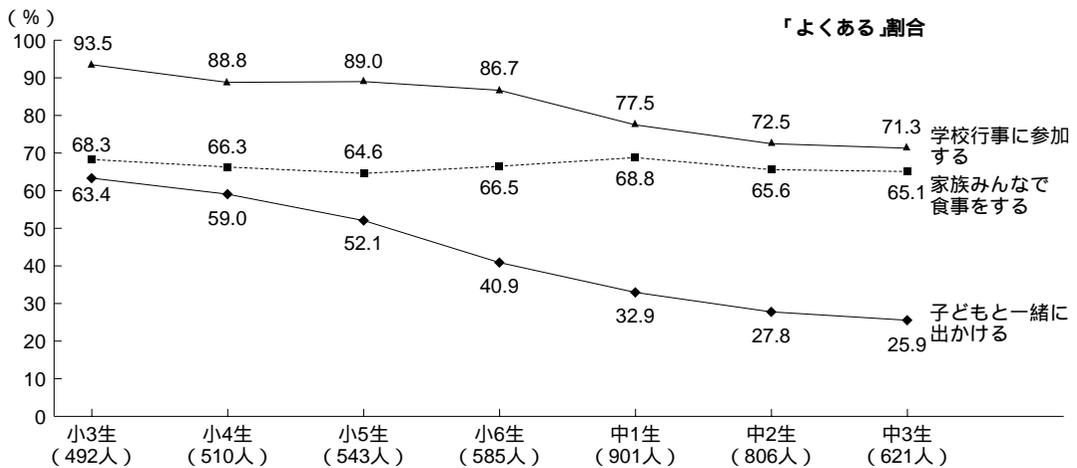
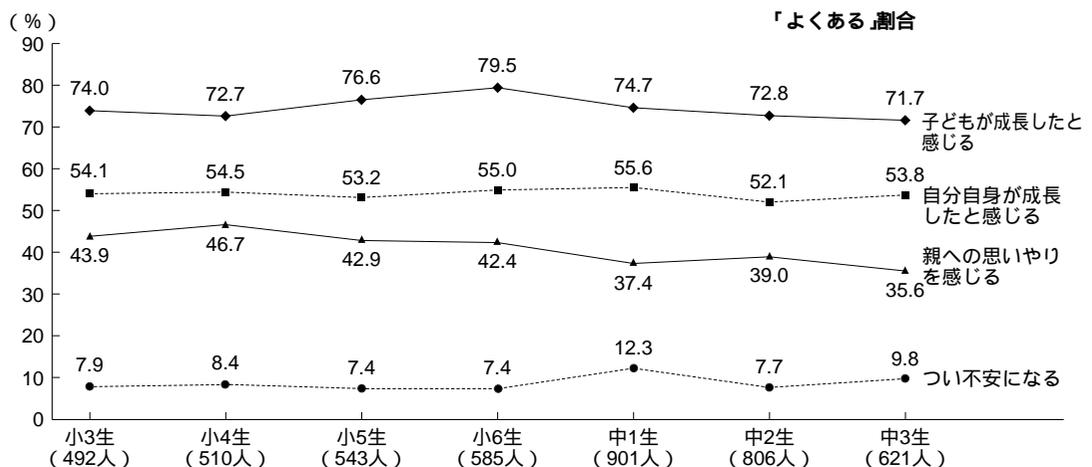


図1 - 15 子育ての場面(4) 母親の意識×学年



## ■ 第1子のほうが共有する場面が多い

第1子と第2子以降との間で「よくある」割合に差がみられるのは、①「一緒に出かける」(第1子45.1% > 第2子以降36.8%、8.3ポイント差)、②「『成績・勉強について』話す」(第1子46.3% > 第2子39.5%、6.8ポイント差)、③「家族で遊ぶ・話をする」(第1子42.8% > 第2子以降36.0%、6.8ポイント差)、④「学校行事に参加する」(第1子84.9% > 第2子以降78.3%、6.6ポイント差)、⑤「つい不安になる」(第1子11.1% > 第2子以降6.9%、4.2ポイント差)だった。学年差の出ている場面と重なる。また第1子の成長にときには慎重になりながら、子どもと共有する場面を第2子より多くもっていることがわかった。

母親の就業状況別に「よくある」割合に差がみられるのは、「学校行事に参加する」(専業主婦87.2% > パートタイマー83.3% > 常勤者64.6%)、「友だち・先生の話」(専業主婦55.3% > パートタイマー49.8% > 常勤者43.1%)、「子どもと一緒に遊ぶ・話をする」(専業主婦66.6% > パートタイマー61.1% > 常勤者57.1%)だった。

## ■ 母親は、子育てを通じての自分の成長や

子どもからの思いやりのある言葉や態度に敏感に反応する(図1-16)

子育ての楽しさと、子どもと共有する場面や気持ちとは関連があるだろうか。子育ての場面の「よくある」について、子育てを楽しんでいる人と感じていない人を比べた。

その結果、楽しいと感じている人は楽しいと感じていない人に比べて、全般的に子どもと共有する場面の割合が高かった。子育てを楽しんでいると感じていない人について、とりわけ意識での差をみると、「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」(59.8ポイント差)、「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」(55.7ポイント差)ことが少なく、「子どもの様子を見ていて、つい不安になることがある」(42.4ポイント差)の割合が多かった。子育てを楽しんでいると感じていない母親は、子どもの成長への不安を感じたり、子どもから報われる反応がなかったり、子育てによる自分の成長を感じなかったりしていることがわかった。

図1-16 子育ての場面(よくある)×子育ての楽しさ

